

「解釈は違って当たり前」

日本は先の大戦で敗戦国となり、戦後に日本国憲法が制定されました。それから80年がたって、憲法について改憲と護憲で意見が分かれています。18歳になると選挙権が与えられるのでみなさんもこの大事な問題を考えることになります。

憲法は変わっていませんが、憲法自体は様々な解釈を経て、現在に至っています。解釈というのは論理的なものから、疑わしい解釈もあり、時代によって変遷するものとはいえしっかりと監視する必要があります。

先の大戦のことについても解釈は様々です。呼称として「太平洋戦争」と呼ばれることが多いのですが、これは主に1941年から終戦までのアメリカを中心とした連合国との戦争を指します。アメリカの「パシフィック・ウォー」を訳したものです。

1937年の日中全面戦争が勃発した際に日本が「東亜新秩序」を唱えたことから「大東亜戦争」という呼称や、1931年の満州事変からすでに戦争状態であるという学説から「15年戦争」と呼ぶ学者もいます。

さらに「百年戦争」という呼称もありますが、これは江戸末期にマシュー＝ペリーが力によって開国させたこと、ここからすでに帝国主義との戦いが始まっていたという解釈からきています。

まだ80年しか経過していないのに解釈は様々で、さらに周辺国と日本の戦争に対する認識にもかなりの開きがあることは否めません。

残念なのは解釈の違いについてお互いに理解したり歩み寄ったりすることが難しいことです。解釈というのは個人によって違って当たり前です。解釈の違いを議論することは大いに結構だと思えますが、相手の解釈を否定することは平行線をたどるばかりで解決にはなりません。

解釈の違いが溝を生み、次の戦争につながってしまうようなことがあれば本末転倒です。日本は敗戦国、被爆国として他の国が経験していない歴史や感情があります。世界に二度と戦争が起きないようにするには日本人が自らの考えを主張し、対話することが大事だと思えます。

解釈も意見も違うことが当たり前。だから対話をするのです。対話がいくら対立しても構いません。人類は対話することで解決策を導くことができる生き物です。そこで暴力にエスカレートしてしまうのならば動物と違いはありません。

100人いれば100通りの解釈があります。どれが正しいということではなく、より良い世界を創るために何がベターなのかを考えてほしいと思えます。